



セフレと...

「お前は俺のセックスフレンド」

村夫子

(自称)女子大生のセフレとエッチしまくるCG集

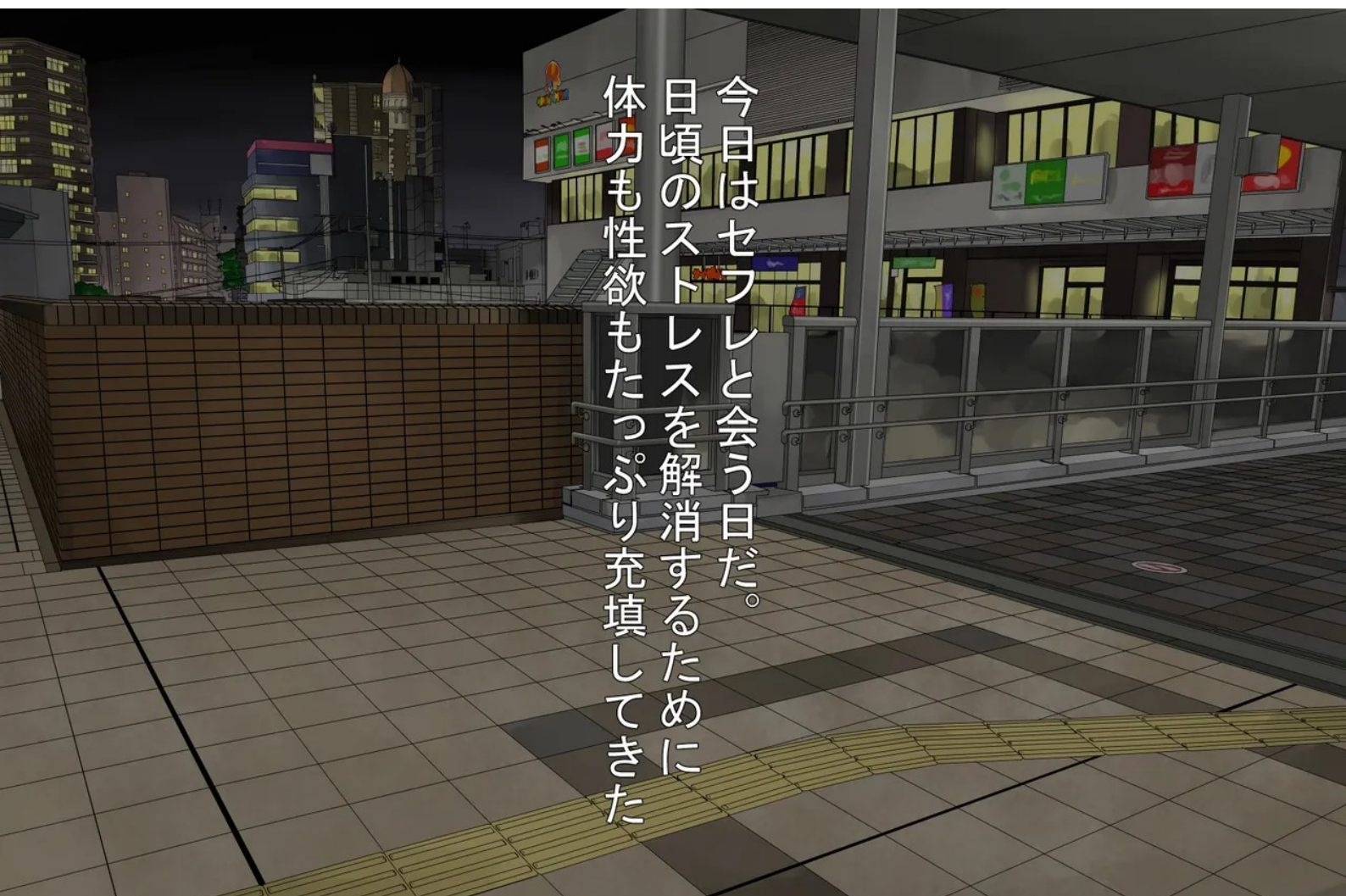


セ

フ
し
と
。

村
夫
子





今日はセフレと会う日だ。
日頃のストレスを解消するために
体力も性欲もたっぷり充填してきた



この娘がセフレの女子大生の可奈だ、
肩書きも名前も自称だが。
本当かどうかは確かめる
必要も無いしその気も無い。
SNSで適当にセフレ募集なんて
書き込んだら引かかった。

もちろん警戒したが、ダメもとで
会ってみたら相性が良かった
らしく以来続いている。
サポでも良いと言ったんだが
「いいよいいよ、お互い
気持ち良くなるんだからさ」
とあっけらかん言っ
てセフレになった。
大体週に一回くらい会って
セックスをしている。





ご飯食べる？
それともすぐラブホいく？

相変わらずストレートなコだ。
こういう所は初めて会った頃と
変わらないし嫌いじゃない。

もちろんすぐラブホだ

俺もストレートに答える。
溜まっている物はなるべく
早くはき出してしまいたい。



お互い様だ

おっけー
もーすけべー

えへへ

二人で腕を組んでいつも使っている

ラブホテルの入り口をくぐる。

いつも使っている部屋は今夜も空いていた。

ボタンを押してエレベーターに乗り込む。

俺の腕をつかむ可奈の腕に少し力が入ったような気がする。

もうお互い緊張するような間柄じゃ無いが、

これから性欲をぶちまける期待に

俺も少し心が躍っていた。



シャワーを浴びるために
お互いにいそいそと服を脱ぐ。

いつも使っているラブホ
のいつもの部屋。



えへへー
今度着たまましてみる？

どう？ この下着
新しく買ったんだー♡

可愛いぞ
脱いじゃうのが勿体
ないくらいだ



うん!
あはは、楽しみ♡

ああそうだな
次は出る前にシャワー
浴びてくるか



えへへ、
ありがとうー

相変わらず
良いおっぱいだなー



あん、
もう気が早いよー

バスルームでたまらず
後ろからむしやぶりついた。
中指でヴァギナの奥に侵入する。

もうヌルヌルじゃないか
期待してたんじゃないか？

ア
ン
ツ
！

そりや君とエッチする

日だもんっ

期待してるに……っ

決まってるじゃんっ……ンツ

ア
ン
ツ

な
ま
ん
な
ん

もう我慢ならん
行くぞ!

うん、来てえ……っ♡
でも今日は中出し
ダメだからね……っ

カチカチ
ビビ

りよーかい！

あああああんっ！
おちんちん来たあっ♡



アンツアンツアンツ
いきなりっ
スゴイツー!!

良いよおっ!
君のツ、おちんちんっ
大好きいっっっ♡

俺も可奈のマンコ
大好きだっっ!!

嬉しいいっ
もっとおっ
いっぱい突きまくってえっっ!

もうダメだっ
出るぞっっ!

あんっ、ダメツ
中はダメっっっ!

あんっ
ああああああああ
あああああああっっっ!!



もう……
第1……ラウンドから
凄いなだからあつ

第2ラウンドからも
激しく行くぞお

もう……
ばかあ……

シャワーを浴び、汗と汁を洗い流して
ベッドに向かった



可奈も相変わらず
嬉しそうにチンコ
いじるな

えへへー
相変わらずすりっぱな
おちんちんだねー

だつて
大好きだもーん♡

可奈はチンコを握りながら
小さな口いっぱい頬ばった。
中で舌が亀頭の
周りを這いずり回る。

うおっつ……

思わず声が出る、
可奈の舌技は絶妙だ。

お、気持ちいいっ
毎度上手いな、すぐ
出ちやいそうだよ

らめだよー
がまんひたぼうが
らすとき
ひもちいいんらからあ

はっ
くっ
っ



喉を鳴らしながら
美味しそうに肉棒を
啜えて頭を動かす。

うむっ、うん、うんっ

うんっ、

こっちが声を出す度に
嬉しそうに攻めてくる

じゅぽっ

じゅぽ。

頭を前後させてしごいてくる。
喉の奥まで自ら押し込んでいく。

ングツ、ングツ
ングツ

苦しそうだが、本人曰く
ちよつと吐きそうになるのが
気持ちいいんだとか。
よくわからんが、俺も
気持ちいいからいいか。
そして早々に限界を迎えそうだ。

ぐっ
ぽっ

じゅぽっ
ぽっ

くううっ
出るぞっ
出すぞっ!!!

それを聞いて
さらに動きを速くしてくる。

チンコがドクツと
脈を打って膨張し、
心地よい射精感が突き抜ける。

腰をビクビクと
痙攣させながら可奈の
喉の奥に精液を射出する。





ゴクゴクと喉を鳴らして
精液を飲み込んでいく。

んぷっ!
くっ、うぐん、うんん!

可奈の唾液と精液に
まみれたチンコを口から
ぬぼんと抜き出す。
まだ敏感な肉棒は可奈に
つかまれてビクビクと動く。

けほっ、
んふふ、いっぱい出たねー
さっき出したばかりなのに
相変わらずスゴイねー

我ながら驚いているよ
可奈にならいくらでも
出せそうだ

ありがと、
うれしいな♡





うん、きて……

こんどは一緒に
気持ち良くなるっ♡

それじゃあ、行くぞ

可奈はそう言って横たわると
脚を広げて湿った肉弁を
惜しげも無く晒す。
ほとんど恥じらうこともなく
初めて会ったときと
変わらぬオープンな様が
いかにもセックスフレンドらしく、
気楽に出来て良い。
コンドームを着けていざ準備完了



なんか苦しそうだな
大丈夫か?

んんんっ

ググ

ぬる、
る、
る、
う、

大丈夫だ……よ
ゴム久し振り
……だからっ
ちよっと……ねっ!



はああつ……
ああんつ、あつ
あくふつ、うん

ゆつくりと
抜き差しはじめる

ぎゆうぎゆうな
締め付けがゴムを
引きはがしそうだ。
可奈の身体が
ピクピクと反応する。

うんっ
うんっ
うんっ
……
うんっ

ず
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ



嫌らしいオマンコだな、
すっかり
ヌルヌルになってる

んもう、いじわる
な事言わないで
よお……うふんっ

はやくするぞ！

きてえ、
激しく突い
てえ……っ

ズッ
ッ
ッ

ズッ
ッ
ッ

じゃ
るっ
っ



もう出そうだ、
イクぞ！

アンツ、アンツ、
アンツ、アンツ、
アンツ、

硬くて太い
おちんちんが
オマンコ広げてっ、
あたしの中を、
突いてくるのオツ！

来て、来て！
あたしもおおつつつ
おつつつつつ！



あああんっ、まだ中で
ドクンドクン
いってるよう

気持ちいいい...



えへへ、
いっぱいでたね！

んんっ！

ぬほっ



君って上手だから
ゴム着きでも
すごく気持ちいい…

そうか？ 本能に
任せて動かしている
だけなんだが

そうなんだ、
やっぱり相性良いん
だねあたしたち

コンドームを付け替えると可奈が押し倒してくる

「えへへ、今度はあたしの番」



あはあつ、
はいってきた、おチンポ…
あん、
かたあい……んんっ

くっ、可奈っ

あんっ、だめっ

下から突き上げ
ようとしたが止められた。



可奈はサービス
精神旺盛だな……っ

こんどはあたしが
動くんだか
らあ……あんっ

可奈がゆっくりと動き始める。

あ、当たり前でしょっ、
…んあっ、
エツチっってお互いつ、
気持ち良くなるのがっ…
いちばん…、なんだからっ

あんっ、うんっ
うん、うはあっ…

グ
ツ
ツ

グ
チ
ユ
ツ

グ
ツ
ツ





奥にいい、
奥にグリグリ
当たってる…んっ

ああんっ……
いいよお……っ

グッ
チュ
グッ
チュ
チュ
ポッ



ねえっ、どう……っ？
気持ちいい……っ？

ああ、良いぞ、っ、
すぐに出ちやい
そうだっ……

やっ……イツちゃ、
ダメだよ、んっ
イクのはいっしよが
良いの……おっ



可奈が今度は大きく腰を振り出した。

んっ!
ウンツツツ!
くうんっつっ!

んっ、うんん……
クツ……くあっ!

おちんちんいいっつ……、
いいのおっつ!

ズリ
ズリ
ズリ
グチユツ

可奈の腰の振りが激しさを増してきて汗が周囲に飛び散る。

ふうふううんんっっ！
ああああっっ！
はあんっ

ううっ、うおっ、
可奈っっ……！

ダメツ、
もう少しだからっっ、
っっしよにっ
っっ……！





あんっ、ああんっ、
おまんこ、
きちやうっつ！
スゴイの……っ
きちやうっつ！

可奈っつっ！
も……うっ！
ダ……メだっ！

あたしもっ！
あたしもっ！
いいいっくっつっつうー！

す
ぶ



ああああああっっ！
イグツ
ウアツあああ
ああっ！

うおおおっ、
ぐあっ！！！！

ビュッ
ジュルル
ジュルル
ジュルル



ああっあ……
まだ……っ、中、でっ、
ドクドクしてるう

はうっっ、
くっ、うっ……
気持ちっ、いい
ようっ……!!

ピクッ

ピクッ

ドクン

ダクン

ダクン

ピクッ



か、ハッ……あんっ……
もう、君のっ、
お、おちんちんっ……
良すぎだよ……っ

やあん、
もうっ……

ああっ!

可奈の、マンコもっ……
良すぎ……

プル
プル

プル
プル



変なことなんて言っていないぞ、
感じたことを正直に言ったんだ

ああ、もう……っ 君が
へ、変なこと言うかつら、
また軽くイツちゃったよ……っ

もう、ばかあ……っ



あんな

ん？

腰が抜けちゃった
みたいで、おちんちん
抜けないの……

おいおい、
ずっと挿入っぱなしか

えへへ、
それでも別に
良いけど？

馬鹿言うなよお



あ、またおつきく
なってきたあ

このまま
下から突くの？

いや、
そうはいかないぞっ！

ああんっ♡

ムククッ
ッ

俺は可奈をうつぶせにして尻を持ち上げる。

あんっ

今度は俺が後ろから攻めるぞ

うん、きてえ……君に滅茶苦茶に攻められるの好きなお……



ズブズブと可奈の中に
肉棒を埋め込んでいく。

んああああ
ああんっ……ひいつ

可奈の全身が
ピクピクと震える

お……
ちんちんっ、お、奥まで、
来てるよお……

突いてえ……っ、
めちや、くちやに、
突き、
まくっつてえっつ……

動くぞ、
どうして欲しい？

ピクッ
ピクッ
ピクッ

ちよつと焦らしてノーマルペースで
腰を動かす。

あんっあつ…… はあつ
んんっ、いい、いいっ
もつと、もつとおつ！

あんっ、あんっ、あんっ、
あんっ！

すずか
んんん
んんん
んんん

じ



さらに力を入れて尻に打ち付ける
汗や汁や涙が飛び散る

ああっ、
イアッ、ひんっ、あっ！

いいっ！ 奥っ！
おくっっ！ いいのっおおー！！

来て！
あたしもっ、もうっ、
だめっっっ！

可奈っ！！
イクぞー！ おおっっ！





はあっあっあっ!

あああああ
あああああっ!

オマンコの中でっ、
びゆるびゆる
いってるっ!!

サッ
ビュッ
ルルル
ビュッ
ビュッ

ビュッ
ビュッ
ビュッ

あはあっ、
んくっ、ふうう……んっ

可奈は身体を震わせながら
余韻を楽しんでいるかのようだ。
俺も同様に可奈の膣の
中から伝わる鼓動を感じていた。

ピ
ン
ク
ッ

ピ
ン
ク
ッ

肉棒を抜くと
だらしなく開いた可奈の膣から
愛液がだらりと流れた。

あふんつ、
きもち、良かった……あん

俺も、
良かったよ……

んふふ……

可奈の尻穴がひくひくしているのを見て
またムラムラとしてきた。

「可奈、アナル良いか？」

「え？ あ、ゴメン。今日は準備してきてないんだ」

アナルセックスをするときは事前に連絡して
ちゃんと洗浄しておくことに決めていた。
お互い健康でいるために決めた約束事だ。

「そっか、急に言っつて悪いな」

「ううん、次は準備してくるね」

「イヤなら別に良いんだぞ？」

「イヤじゃ無いよ、むしろ君のアナルセックス大好きなんだから」

名残惜しいところもあったが
おおむね満足して帰り支度を
する事にした。
シャワーを浴びて汗と汁を流した。

あ、今度と言え

何？

仕事の出張が
あるんで、次に会えるの
3週間後のこの日だ

そっかし、
残念だね…

あ

どうかした？

ちよつと待って





中出しし放題だな

おおっ!

あ、やっぱり!
その日安全日だよ!

可奈はスマホでカレンダーを確認しているようだ。



えへへー、もうすけべー

お互い様だ

じゃあー 次の
時までオナニー禁止ね！

なんでそうなる

その方が気持ち
良くなるし！



おおう、
受けて立つぜい！

じゃあ、可奈も
オナニー禁止な

ちよつと遅めの夕食を
一緒に食べて今回はお別れだ。

えへへ、ごちそうさまでした

お粗末様でした

次もお腹一杯
ごちそうしてねー、
上も下もね

街中でさらりとエライこと言うなこいつは

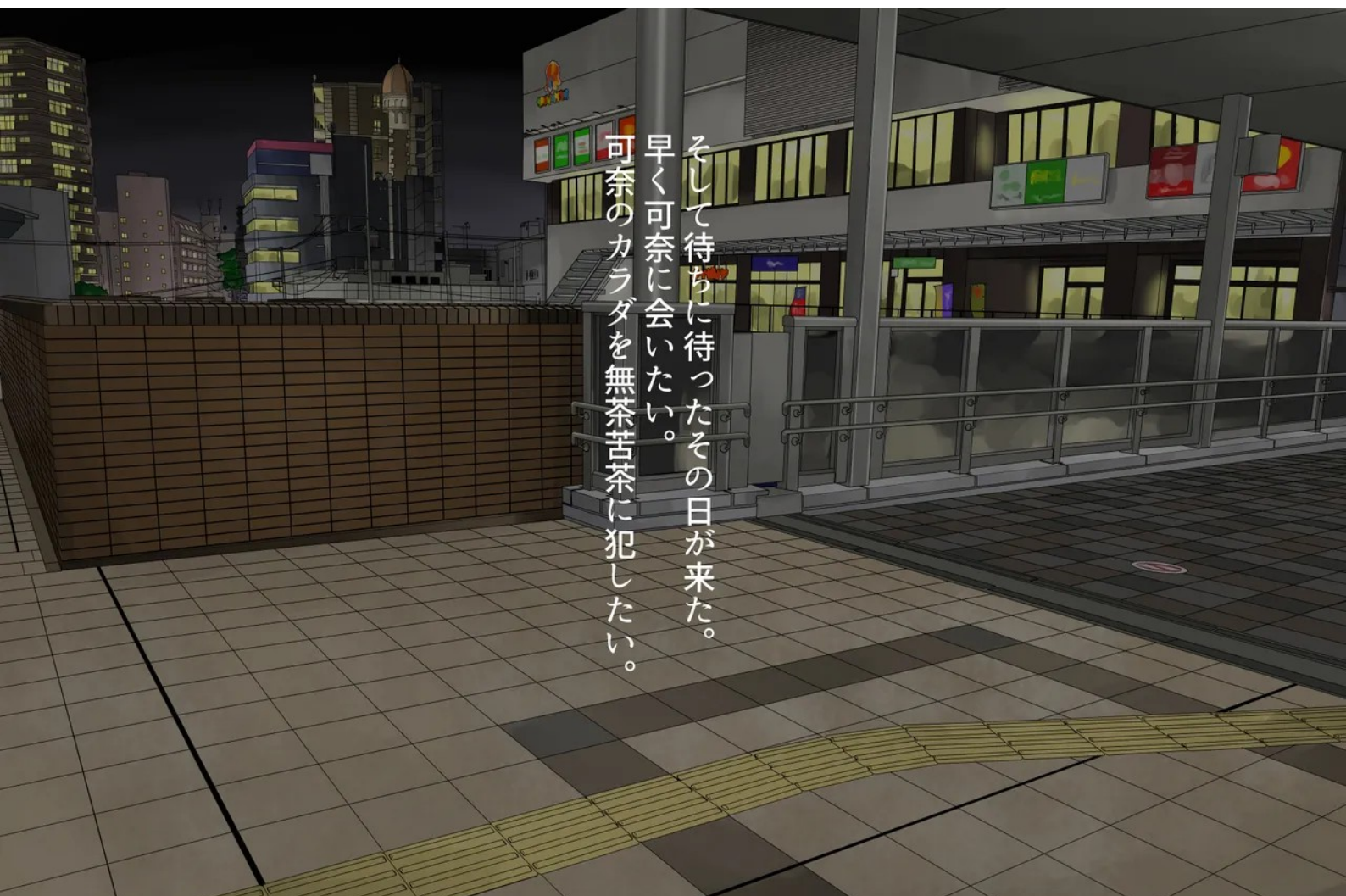
ああ、待ってるよ。じゃあな

うん、バイバイ♡

この3週間は辛かった。可奈との約束通りにオナニーも他の女を抱くことも我慢した。

今さら可奈以外の女でそう満足できるとも思えないが。自分の中の性欲メーターがみるみるレッドゾーンに近づいていくのを感じていた。

最後の一週間に到っては、ちよつとでも可奈に似ている女が視界に入る度に勃起する有様だった。



そして待ちに待ったその日が来た。
早く可奈に会いたい。
可奈のカラダを無茶苦茶に犯したい。



おう、待ったぜ。
行くか

うん！

ああ、待った待った。
可奈の顔を見るのがこんなに
嬉しい気分になるとはな
その可奈の表情も心なしか
いつもと違って興奮しているように見える。

やつほー、
おまたせー

腕を組んでいつものラブホへ向かう。

可奈はいつも以上に密着してくる。

いつものホテルの門をくぐり、今日も空いている5階のいつもの部屋のボタンを押す。

エレベーターに乗り込むと可奈が口を開いた。

「こんなに会えなかったのって初めてだね……」

「ああ、そうだな」

ついキスをした。

可奈も腕を俺の首にまわしてキスを返してくる、俺も可奈の腰に腕を回して抱きしめる。

可奈の顔が熱くなってくるのがわかる。

エレベーターが5階に着いてドアが開いてもキスをやめられなかった。

永い数秒の後、惜しみつつ唇を離す。

「降りなきやな」

「そうだね……」

いつもの部屋に入る。

ドアの鍵を閉めると同時に可奈が後ろから抱きついてきた。抱きつく可奈の腕をほどいて向き合って可奈を抱きしめる。

言葉無くひたすらキスをする。

舌を絡めあう濃厚なキス。

数分だろうか、数十分だろうか、とても長い時間が過ぎたように感じた。口を離すと可奈は俺の胸に熱くなった顔を埋める。

「脱ごうか」

「うん」



どうかかな？
このランジェリー

おおっ、かっこいいぞ！
ちよつと高そうだな

えへへ、
ちよつとふんぱつ
したよ

良いのか？
着たまましちやう
と汚れると思うぞ

替えがあるから
だいじよーぶだよ、
それに君に喜んで
もらえるなら嬉しいし



可愛いことを言ってくれ。

それじゃあ今度
お返しをしないと

えへへ、
そんなの良いのに

お互い気持ち良くなるんだろ？
俺も可奈のために
奮発するよ

わずかな沈黙の後、下着姿の可奈を抱きしめて
ベッドに押し倒す。

あん、すごい……
もう君のおちんちん
ビンビンだ……

ワク
ワク

ああ、
なんてったって
3週間分の性欲が
詰まってるからな

えへへ、
あたしだっていっぱい
たまってるんだからあ……

ト
ト
ト
ト
ト

下着をずらしてみると
可奈の花弁は言うとおりのヌルヌルに光っていた。

ああ、夢にまで見た
君のおちんちんがもう……

俺もお前の
マンコを夢に見たよ

えへへ、
夢が叶うんだ……

かき

かき
かき

ぬら

ぬら

可奈、いくぞ

う、うん……

どうした？
何かまずいのか？

ううん、久し振りだから
ちよつと怖い……
自分がどうなつちやうのか……

大丈夫、俺に任せろ。
全部受け止めてやる

うん、ありがとう。
君は優しいね……



ううんんっ、
んっ!!!

ポ
ッ
ポ
ッ

ッ
ッ
ッ
ッ

ッ
ッ
ッ
ッ

くっくっ
んっんっ!!!
.....

ご、ごめ……んっ、
い、いれっ、た、だけで……
いっっちゃっ……た……っ

こ、こん……っ、
こんなのっ……
はじめ……
てっ……!!

ブル
♡

ブル
♡

動くぞ……っ!

ヒク

ヒク
ヒク

だめ、だめ、だめっ

構わずピストンを始める。
一回イッて敏感になった可奈の身体が
ガクガクと震える。

い、いっつっつっつ！
んっつっつ！

可奈は全身を駆け回る快感に懸命に抗っているようだ。
全身からの汗が玉になる。



さらに激しく腰を打ち付ける。
湿った音が結合部から吹き出す。

あんっ！ あんっ！
ああああっ！！

ず
ぱ
っ

じゅ
ぽ
っ

ぐんよ、

すごいのっ……！！
イクツツ！
またイクツツツツツツツツツ！！

俺もだっ!
出すぞっつっつ!

きてっつっつ!!!
な、か、にっ! 君のザーメンっ!
ほしいっつっ! のっつ!!!

じゅぽん
ずぽん
ぐんよ

うおおおおお
おおおおっ!!!

ああ……っ、
おなかの中に君の
ザーメン、がっ、
染み込んで、くるう……っ

どろろ

どろろ

どろろ
どろろ

おしゅん、
おしゅん、

どろろ
どろろ
どろろ



ああ、すげーっ！

おおおっ！

あああああつ、
あ、あつうご……っ！

ゴッ
グッ
ゴッ
グッ

ブルルッ

あふうつ、
か、かけられただけで
イツちやった……あ、
あんっ♡

俺の肉棒はようやつと収まって
頭を垂れてきたが
まだ充分な硬度を保っていた。

すごいね、
かけられてイツちやうなんて
初めてだよ……

はあ♡

はあ♡

せつかくの下着
ドロドロになっちやつたな

大丈夫だって言ったじゃん。
着てきた甲斐があったよむしろ♡

またイツたのか？

……うん、えへへ、
今日は凄いな
あたしどう
なっちゃうんだろ……？

大丈夫だって言ったら、
俺に任せろ

うん♡

そう言って可奈は
嬉しそうに笑った。

「ね、今度はあたしがしてあげる」
そういつて可奈は俺を立たせた。
幸せそうな顔をしてチンコをくわえ込む
いわゆる仁王立ちフェラだ。

ああ、大きい……
んちゅっ♡

ぱくっ

可奈は肉棒を口の中でじっくり
味わうように舌を転がす。
やがて徐々に口の奥へ飲み込んでいく。

ん……♡
うん、うん、ふん……

くちゅ
くちゅ
ちゅっ
ちゅっ

また汗ばんできた可奈の身体がエロチックに光る。
それを見ると俺の肉棒はさらに硬さを増していく。



肉棒が硬くなるのに呼応して
可奈が頭を前後に大きく振り始めた。

ぐ
ちゅ

ぐ
ちゅ
ぽ
ぽ

ん、んっ、んっっ、
くちゅるっ……
ちゅばっ、んっ……

んぷっ、ふぐっ、
んんん、ふんんっ

喉の奥の方にまで肉棒を押し込んでグラインドしてくる。
可奈は苦しそうに涙を流し、口からよだれがあふれ出す。

ぐぼっ

ぐぼっ

じゅぽっ

可奈の嘆願が俺の射精の引き金を引いた。

んぐっ、ングツ、
おご、んんっ、もっひよ、
おひゆに、ほひいっ♡

可奈っ、出すぞ！
出るっっっっ！

ひようだい、
ふいみの、せいひ、
ひようだいっ！！



うおおおおっ!!

っ
っ
っ
っ
っ
っ
っ
っ
っ
っ
!!

ゴ
ユ

ッ
ッ

ッ
ッ

ッ
ッ

ッ
ッ
ッ

ッ
ッ
ッ
ッ

可奈の奥に射精し、可奈は喉を鳴らして
ゴクンゴクンとザーメンを飲み込んでいく。

いんらんっ

ごくんっ

いんらんっ

俺は膝をガクガクとしながら
辛うじて言葉を発した。

んんっ、んんっ、
ふんんっ

可奈、
凄く良かったよ……

んふふ、うん♡

可奈の腕をつかみ、後ろから襲いかかる。

今度は後ろから行くぞ

あん、うん、きてえ……
あんっ♡

セファント♡
セファント♡

可奈の割れ目に肉棒をそらせる。

ああん、もう、
焦らさないでよう……

ゆっくりと挿入していく。

ああん、
はあああんんんっ……

ズブズブと可奈の中に
ペニスが埋没していく。

いんっ

いんっ

ズ
ブ
ウ
ウ

いやあ、
もっとお……

可奈は震えながら
嘆願する声を上げる。

ペニスの先端が可奈の
いちばん奥に達した。

軽く奥をツンツンと突く。

んあつ、あああ……..
おくに、きてるう……..
♡

んっ、いやっ、
そ、んな、焦らし方っ、
しないでえ……..

クチユ
イチユン

軽くパンパンと腰を打ち付ける。

んんんっ、あんっ、
うん、はあああっ……

すげー、
いやらしいよ、
可奈……っ！

いやあ、いやあ、
こ、こんなに、なるのっ、
君だけ、なん、
だからああっ♡♡

打ち付ける速度を上げる。

んううう……
はあああああつ、あんっ！
激しいよおおっ！

可奈の膣が俺のペニスを
うねうねと締め付ける。

いいぞっ、可奈の、
マンコ、良いぞっ……！！

うれしいっ、
いいいいよっ！
す、好きなだけ
突きまくってっ！



出すぞっ、
可奈の中に
ぶちまけるぞっ！

パ
ン
ン
ン

パ
ン
ン
ン

パ
ン
ン
ン

あ
た
し
の
中
に
つ
つ

パ
ン
ン
ン

来てっ、
あたしの、中につ、
いいっぱい
ちようだいっつっ！

あああああああ
でてるっ、
あああああ
あああああっっっ!!!

うおおおおっ、
おぐっ!!!



ああ…… いったいい……、
ドクドクはいつてくるう……
きもちいいよお……

ピクッ

ピクッ

はぁはぁ♡♡

ピクッ

ゴクッ

ゴク

ゴクッ

ペニスを抜くと可奈の割れ目から
ザーメンと愛液が混ざった液体がドロリと流れ出す。

あん……、
いっぱいでたね……えっ

ああ、
可奈は最高だよ……

もう、
ばかあ……♡

×□×……
×□×
×□×



可奈は俺を押し倒してキスをしてきた。

「んちゅう、うん、んんん……」

激しく舌を絡めむさぼり合う濃厚なキス。

俺も可奈を抱きしめ背中をまさぐる。

「んんん、んふん、うん……」

俺のペニスがみるみる復活してくる。

「ふはあ、おつきくなってきたねえ」

唇を離すと可奈は小悪魔のように笑っていた。

可奈は肉棒を割れ目にあてがい、一気に腰を落とす。
ズブズブと飲み込まれていく。

うんっ、はあん、
おちんちんいい……♡

くちゅ

くちゅ



奥まで到達すると可奈はブルツと身体を震わせた。

ああ、いいよお……
おくにあたって
きもちいい……♡

可奈、動くぞ……

ブルツ

ピ
クツ

だあめ、こんどは、
あ、あたしが
うごくの……っ

腰をグリグリと回して奥に突き当たった肉棒を刺激する。

ああ、あん、
うんっ、いい……
よおっ♡

う、はああっ、
んくう……
ううんん

クチュ

クチュ

ジュジュ……

グッ
グッ



あああああああ
あつ、あつ、あつ！
ひいつー！

キユン
キユン

うおおおつ、
おつー！！



ああん……、でてらう……、
おなかいっぱいにい……

しあわせえ……♡

はあ

はあ……

ちゅん♡

とん……

とん……



可奈、嬉しそうだな

えへへ、本能かな？

そう言いながら可奈は肉棒をうねうねと絞り上げる。

くちゅ
くちゅ

ああ、また
おつきくなってきた……

このまま
もう一回いい？

だーめ

あん♡

ムククツツ

今度は俺が可奈を押し倒してキスをする。
乳房を揉み、乳首に舌を這わす。

「あん、いやあ」

舌はお腹を伝い、股間へと達する。

ビンビンに立ったクリトリスを舌先でツンツンと突く

「あんっ！ あひっ、ダメッッッ！」

可奈は全身をビクビクと痙攣させる。

「可奈は相変わらずさこういうのに弱いな」

「もう、意地悪う……」

あはは、
もうビンビンだあ♡

可奈の乳首とクリトリス
舐めたらこうなっ
ちやっただよ

もう、ばかあ
変な事言わないでよお

ビーン
ビーン

可奈は俺のチンチンをじっと見つめている。

どうした？

うん、何か見慣れて
いるはずなのに
今日は新鮮な気がしてさ

ドキ
ドキ
♡

久し振りだからかな

うん、たぶん……

実は俺も似たような
感覚にとらわれていた。

んあああつ、はあつ！

きもちいい、
きもちいいよお……♡

ピ
ク
ッ

ピ
ク
ッ

ズ
ズ
ズ

ズ

ズ

2/2

あん、ん、
は、ん、ん、っ……

可奈あ、良いぞ……

あたしもお、
いいよお……っ♡

ビク
ビク

キゅん♡
キゅん♡

もっど、
したい……っ！

ぬる、

じゅぽっ

きてえ、あ、あたしも、
もっど、きみが、
ほしいよお……っ！

2/4

ひやうんっ、アフウツッ！
も、もっと欲しい、
ぜんぶ、いれて
ほしいのっっっ！

ず

いいよっ♡
好きなだけいいよっ！

俺、もっと、
可奈を感じたい……！

じゃ

じゅ

可奈っ!
可奈っ!
可奈っ!
可奈っ!

はあっ!
はあああああっ!
気持ちイイツツ!

ほっ

来て、きてえっ!
あたしも、もう
ダメツツツツ♡

うああっ、
もうダメだっ、
出すぞっ!!!

じゅっ

じゅ

ああん……
ああ……
君のザーメン……

ポクッ
クワッ
クワッ

クワッ
クワッ

おははははは

クワッ
クワッ
クワッ

おははは……♡

クワッ……

はあんっ♡

ぬほんっ

はあ、はあ、
んんっ♡

ああん、
出てきちゃったあ……

はあ♡
はあ♡

あつうい、
すごいね……♡

どろおっ……

パタ
パタ

もう、死んじゃう
かと思った……♡

俺も、
ぶっ飛びそうだった……

あはは……

えへへ……



あふれ出したザーメンをティッシュで拭き取りながらキスをする。

「んん、んちゅうっ、んうん」

「ちよつと激しすぎたか？ ヒリヒリしないか？」

「ちよつとだけね、でも大丈夫だよ」

「そうか」

そう言いながら可奈の割れ目に指をそわす。

「あん、もう……」

尻の方に指を伸ばすと菊穴がヒクヒクしているのがわかる。

「可奈……」

「うん、良いよ…… ちゃんと洗ってきたから……」

えへへ、ここは
君専用なんだから……

え？
どういうこと？

アナルセックスは
君としかしたことないんだ♡

まじ？

えへへ、まじだよら、
オナニーはしてたけどね

アナルのバージンは
君にあげたんだよ♡

それは感激だな、
あの時そうだったんだ

うん♡

俺は可奈と初めて身体を
重ねた時の事を思い出していた。

うん、きてえ……

いくぞ

くうっ、ふっ、
んんんっ！

ビッ
ク
ッ

+

||

+

||

||

ずっ

ぬ

ぬ

...

いいっ、あああ
うんんんっ……！

可奈、痛そうだが
大丈夫か？

だ、い、
だいじょうぶだよ……っ！

かはっ

はあっ

ひ、ひさしぶりだからさ……
ちよ、ちよつとだけ……っ！

ひっ
ひっく
くっ

ブル
ブル

う、うんっ、
だいじょうぶだからっ、
いいよっ♡

ゆっくり動くぞ

んふううんっ
うんっ
ぐ、うんっ
ふあっ……!!

か、可奈、
凄い良いぞ……っ

ヌ
ヌ
ツ

ズ
ズ
ブ
ツ

うれし……いっ♡
もう大丈夫だから
お、おもいっきり、
し、してっっ!!

はあッ♡
あッ♡
♡

ビクッ
ビクッ

ふはっ、あはっ、
はっ、あっ、あんっ♡

ハッ♡ハッ♡

プルッ

じゅわん、
じゅわん、
じゅわん、

くわん、
くわん、

いいっ！
いいよっ、もっど、
もっどお尻の中
かきまわしてっ！

あああああああ
あああああつつつつつ!!!

でてるっ!
あたしのお尻に君のザーメンが
ながれこんでくるっつ!!!

びゅ
びゅ

いいっ!
お尻に生中出し
いいのおおおおつ!!!

びゅ
びゅ

びゅ

と
びゅ

びゅ
びゅ

ああ……
まだでてるう……
きもちいいよお……っ♡

あふんっ♡

びびっ

びびっ

びびっ

ひゅる

あふんっ♡
んっ……
んっ!

びびっ

びびっ

びびっ……

ああんっ、
ああ……
はああ……♡

はあ♡
はあ♡

ピクッ

ブルブルッ

ズポッ
ズポッ

あたしも、
すごく良かった……
うふっ♡

可奈、
スゴイ良かったよ……

あうん、
出てきちゃったあ……

ありや、
我ながら良く
出たと思うよ

どろろ……

君みたいなの
絶倫初めてだよ♡

可奈だけだよ、
俺がこんなになるのは

えへへ♡

あんっ♡

可奈が身体をブルツと震わせると
マンコからも中出ししたザーメンがあふれ出てきた。

ブルツ

トロ

あぁっ♡
はっ♡

あぁんっ、
またいっっちゃ……っ！

ビ
ク
ッ

可奈って本当に
イキやすいな

君だけだよ、
こんなにイカせられたの

俺たち相性
良いんだな……

うん……



一瞬の沈黙を挟んで可奈が
照れくさそうに言う。

えへへ、これだから
君とのエッチ大好きなんだあ

可奈の目から流れる涙がちよつと変わったような気がした。
それを見て俺はひとつの決心をした。

「可奈」

覚悟を決めて切り出す。

「ん、なに？」

「この3週間、ずっとお前のことばかり考えてた」

「え……………」

「身体の相性だけかと思っただけだよさ」

「うん」

「今日久しぶりに会って、エッチしてそれでも何か足りなくてさ」

「え？」

「可奈と一緒にもっと色々な事したいと思った」

「……………」

「俺は、可奈が好きだ」

「……………!!!!」

可奈が大粒の涙を流し出した。

「可奈……ダメか……？」

「あたしだって、ずっと3週間苦しかった……」

「うん」

「ずっとずっと苦しかった……」

「うん」

「今日君に会った瞬間、心が爆発しそうだった」

「うん」

「元々は彼氏に振られてヤケになって、君と、エッチするだけだったのに」

「うん」

「あたしの中、もう君で一杯なんだからあ……」

「大好き」

「それは何度も聞いているよ」

「ばかあ、この『大好き』は初めてだよお」

「わかってる、大好きだよ、可奈」

えへへ、
『セフレ』終わっちゃったね

ああ、
これからは『恋人』だな

どうする？
もうだいたい遅いけど
晩飯行くか？

うん、そのあとは？

そのあと？
そうだな……
またラブホ行くか


もうすけべー♡

イヤか？

そんなわけ無いでしょ♡

こうして可奈とのセックスフレンドとしての関係が終わり
恋人という新しい関係が始まった。

だが、この関係はそう長く続くことは無かった。



俺は可奈と結婚することになった。
可奈が大学を卒業し、就職をして半年後のことだ。
共働きをして家庭を築いていこうとふたりで決めた。

なお可奈は本名で本当に大学生だった。



こんな所で
言うんじゃ無い!

また仕事で
出張することもあるけどな

そのときはまた
オナニー禁止で

えへへ、
これからはずっと一緒だね♡

えへへー

こうして可奈との恋人としての関係が終わり
夫婦としての関係が始まった。
今度の関係は永くなりそうだ。

結婚してから少しして2週間の出張になった。
新婚ほやほやになんてコトさせやがるこの会社。

出張先で可奈からメールが届いた。



「新しい下着買ったよー 帰ってきたらこれ着てしようね」

この貯まっている俺になんてメール送りやがる。

と、もう一通来た。



んっ……っ!!

なんてコトしやがるこの嫁は！
帰ったらザーメン漬けにしてやる！

「サービス♡ オナニーに使っちゃダメだよー」

End